

院内だより

335号
岩本内科
31・1

開院五十周年

を迎えて



新年おめでとうございます。

今年は新しい天皇のご即位があり、年号も変わると言われる。

我が家にとっては「開院五十周年」という節目を迎えることになりました。それは昭和44年2月4日が新規開院日で、あれから50年という長い期間を時代の変遷に耐えながら、大過なく医療活動が続けられたことに改めて驚き、その間終始支えてくれた家族や親戚、そして地域の方々更に周辺の医療機関の先生方に多大のご支援を頂いたことに心より感謝申しあげたい気持ちでいっぱいです。この五十年間には国内は勿論、世界的社会環境の変化に惑わされることもありましたが、今日まで医療を主体とした社会活動に携わることが出来たことを大変嬉しく思っている。

ここで私の経歴を振り返ると、吉原小学校と丸亀中学3年生までは戦時中、その後はGHQによる全国的学制改革に翻弄されながら、念願の徳島大学医学部を卒業したのは昭和30年3月で、昭和31年に第20回医師国家試験に合格し医師免許証を取得した。その後大学や国立善通寺病院などの勤務医をしていたが、その頃私たちは天霧山の南山麓で静かな生活をしていた。

ところが昭和40年代には日本の高度経済成長が始まり社会が大きく変動していた時期で、その当時我が家から1Km程も離れていない天霧山の中腹で大規模な碎石場が稼働し始めたため爆破音とその振動や砂煙が連日続き、今まで静かであった生活圏は大きく乱され人々は困惑していた。この状況からしてこの地域での永住は私の人生にとっては決して好ましくないとの判断で、急遽転居を考えると同時に医院の開業を決心し、早急にその準備を始めた。

当時は社会の経済活動が盛んで丁度国道11号線が新設された頃で土地の転売が進んでいて、診療所建設用地の取得も順調に進み、医院の設計は建築業者と協力したことを懐かしく思い出す。同時に社会の進歩で自家用車が多く走り始めた頃で私も早速運転免許証を取得し、その頃販売された“スバル360”を購入して乗り回したものである。その当時のスバル360は医師に人気があり私もその一人として二十年以上愛用したように思う。またその頃は往診の多かった時代で一日10軒ほどのこともあり、細道でも何処でも小回りのきくとても便利な往診用車であった。しかしその後は医療の進歩や入院機関の充実などで往診の件数は減少の一途を辿った。

当時の開業医としての活動についてみると、伝染病対策が医療の重要な仕事

であった。仲多度郡善通寺市医師会報によると、毎年のようにインフルエンザの大流行が全国的に見られ、各医療機関は繁忙するし、その予防接種が半強制的に行われて私たち医師はその接種に駆り出されたものでした。またその時代特に驚いたことは私が開業した翌年の昭和45年1月には日本医師会主催の“全国一斉診療拒否”というストライキが行われたことであり、大きい社会問題となったが当時の日本医師会長は武見太郎氏で強い権力を持っていたといわれた。そのころ社会全体でも多くの労働組合が様々なストライキを実行して社会の混乱を起こすという重大な社会問題が続発していた時代でもあった。

このような時代から高度経済成長期を経て出現した近代社会構造の変化は車社会の進歩や日本食から欧米食に変わった食習慣の変化などが原因になったのではと思われる高血圧症、肥満、糖尿病、肝疾患、腎機能不全などが多く見られるようになった。その要因としては食習慣の乱れにあることが明らかとなり、医療業界でこのような症状を“生活習慣病”と認定したのは、その先達を務めた聖路加国際病院の日野原重明先生であった。それに先立ち昭和45年には人間ドックの一日検診が全国に普及し始め、早期発見、早期治療が重要視されるようになった。かくして日本は予防医学の先進国とみなされた。

近代医学の進歩は素晴らしいものであるが、現代の生活習慣病は完全治癒が難しく長期の治療を必要とされる。そのため正しい食習慣を気長く継続しながら自分で体力の維持をはかる心がけがとても大切と思われる。「健康は自分で作り守るもの」という標語が示すように、現代は情報過多の時代で正しい知識を上手に選択し自らが実践することが求められる。

ところで、昭和60年に長男（現院長）が福岡大学医学部を卒業して、将来どんな道を選択するのが良いのかと考えた時、これからの時代は「糖尿病」が中心的な役割を果たすのではないかと思われたので、本人とも相談して糖尿病の医療を専門とすることに決めた。そのため新設されていた香川大学医学部の第1内科に入局して石田教授の元で糖尿病の勉強に励むこととなった。

長男はその後数年間大学での研修を続け、平成8年からは当医院で「糖尿病専門医」の資格をもって診療に励み、その後は糖尿病の患者さんが急増し、現在では外来患者の8割くらいが糖尿病関連の方々である。そのため当院では食事指導や体力維持のために体操教室を開設し患者さんのサポートを実践している。また、医療にとって重要なのは早期発見と早期治療で、平成20年からは市町で特定検診が毎年実施されているので、疾病予防と心がけて受診して欲しい。

なお、平成29年3月には内孫が医師免許証を取得し、現在川崎医科大学で卒後臨床研修をしているが、一人前になるには10年ほどの勉強が必要で、今後の努力で立派な医師になるよう願っている。